

8/25
木全

真宗大谷派宗議会議員・寶泉寺住職 木全 和博さん



きまた・かずひろ 1951年愛知県生まれ。名古屋市
中川区にある寶泉寺住職。
あいち宗教者九条の会世話
人代表

強化によって国際紛争にあたるという勢力に、断固反対の姿勢をとるべきだと多くの人が感じています。

対決軸持つ政党

真宗大谷派は5月に法案反対の宗派声明を発表しており、衆院の強行採決にもすべ抗議しました。この声明は、教団が先の大戦で国家体制に追従し戦争に積極的に協力して、多くの人々を死地に送りだしたとのべ、その過ちを深く懸懐するとのべています。そのうえで、「過去幾多の戦火で犠牲になられた幾千万の人々の深い悲しみと非戦平和の願いを踏みにじる愚行を繰り返してもよいのでしょうか」とすべての方々に問うています。

この考えは、1987年の全戦没者追弔法会で初めて教団の戦争責任を表明して以来の一貫した立場です。一人の門徒がすべてのお寺の掲示板にこの宗派声明をはりだすべきだと新聞投稿でいっていましたが、同感です。

参議院で野党が一致して法案阻止にのぞんでほしい。とくに政治姿勢でブレないのは、共産党です。自民党政治にはっきりした対決軸を持った政党がいま必要であり、期待しています。

聞き手 山沢 猛
写真 愛知県・加能拓人

非戦の願い破る愚行

衆院で強行採決後も安倍首相は「国民に丁寧の説明した」といっていましたが、法案の内容はまったく憲法にそぐわないので、いくら説明をしても国民は納得できないと思います。もし「60日ルール」で衆議院での再議決を本気で考えているとすれば、参議院の存在をないがしろにするものです。

寺の会合で「安倍首相は戦争のことを何もわかっておらん」と80代の戦争体験者の方が言っていました。若いときもおかしいと声をあげています。戦争か平和かという、日本の将来を決定づける非常に大きな今の出来事です。

冷戦終了後、宗教的原理主義がはびこり、その暴力をまた武力で抑えつけるという悪循環が起きています。しかし、あの悲惨な体験をつうじて二度と戦争をしないという歯止めになってきたのが、9条でした。軍事力増強、国防

平和の意思養う

安倍さんは第1次内閣以来

【真宗大谷派】

→ 真宗大谷派